

「人」と「人」が交わるフリーマガジン

KRP PRESS 5

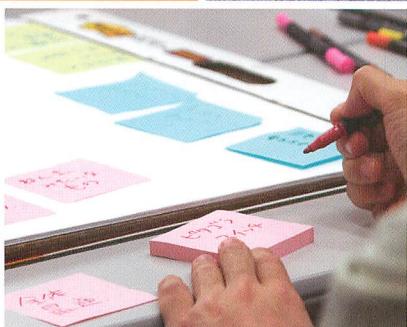
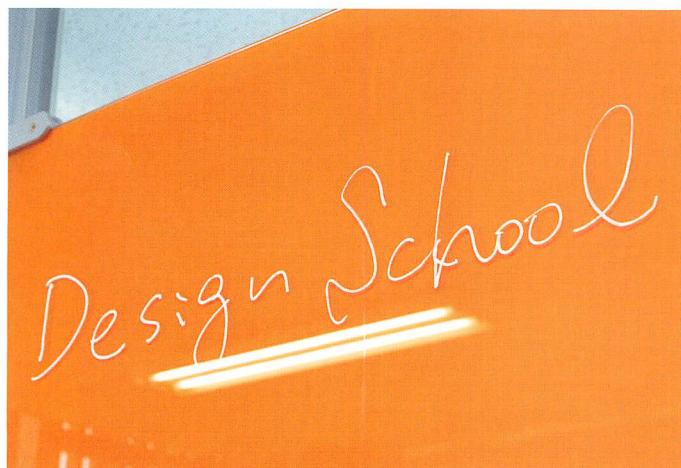
2013
vol.130
MAY

特集1:京都大学デザインスクール

「デザインイノベーション拠点」KRP9号館内に開設!

特集2:KRP(株)の海外連携活動レポート

シリコンバレー・台湾と京都を結ぶネットワーク形成を強化



(左から) 京都大学 楢木 哲夫教授／石田 亨教授／門内 輝行教授

— 次代を担う人材を育成 デザイン学大学院連携プログラム —

京都大学デザインスクール 「デザインイノベーション拠点」 KRP9号館内に開設

京都大学は2013年4月、5年一貫の博士課程教育リーディングプログラム「デザイン学大学院連携プログラム」を開始しました。複雑で多様な現代社会の諸問題を解決するため、「社会のシステムやアーキテクチャ」をデザインする、俯瞰力と独創力を備えた人材の育成を目指し立ち上げられました。学部間や産学公、国内外の多様な連携によってリーダー養成のための教育・研究活動が展開される、かつてない取り組みです。

同プログラムの始動に伴い、実習・研究のハブとなる「デザインイノベーション拠点」が、KRP9号館に設けられました。大学院生はもとより、産学公の多彩な人材が集い、産学連携・国際連携の場、異領域の専門家が協働して未来を創造する場としてさまざまな活動が予定されています。

今回、プログラムコーディネータの石田教授をはじめ、国際連携とカリキュラム作成を担当された榎木教授、「デザインイノベーション拠点」を設計された門内教授にお話を伺いました。



社会の諸問題をデザイン力で解決する クロス 「十字型人材」を育てたい

京都大学 情報学研究科 社会情報学専攻
プログラムコーディネータ 石田 亨教授

京都大学とデザインは結びつきにくいと思われがちですが、ここでの「デザイン」とはファッション・デザインなどの意匠を意味するものではなく、震災復興のグランドデザインなど社会の仕組みに関わる広義のデザインです。科学・工学・デザインの循環をつくる新たな学問領域です。多様な要素が複雑

にからみあう社会の諸問題は、単一の専門領域の知識だけで解決することができません。サイバー（情報学）とフィジカル（機械工学、建築学）、さらに経営学・心理学・芸術学など異なる領域の知識や、現場における問題発見・解決能力など、さまざまな知識や能力により構成される“デザイン力”が必要です。このプログラムでは、そうした幅広い知識に基づく



「俯瞰力」と、実践的な実習・研究で培われる「独創力」をそなえた、突出した専門家「十字型人材（+ Shaped People）」の育成を目指します。また、産学連携、国際連携、大学間連携による教育の推進を目的として、デザインイノベーション拠点をKRPに設立しました。さらに、本拠点にオープンイノベーション機能を有するフューチャーセンターを設けることで、社会の期待や実問題と大学の教育研究を接続します。ここから産学官公民や国内外のネットワーキングが広がり、実社会に役立つ「十字型人材」が輩出していくことを目指します。



国内外の産学公の連携により、諸学の知を融合した「デザイン学」が誕生



(提供:京都大学デザイン学大学院連携プログラム)

デザインイノベーション拠点

実習を通じて学生と
社会がつながる「開
かれた場」で、産学公
連携から新たな価値
の創出を目指す。



※「芸術学」の分野は京都市立芸術大学と連携



「実習」と「デザイン共通科目」を 二大特色とする独自のプログラム

京都大学 工学研究科 機械理工学専攻 梶木 哲夫教授
デザイン学ユニット教育委員長

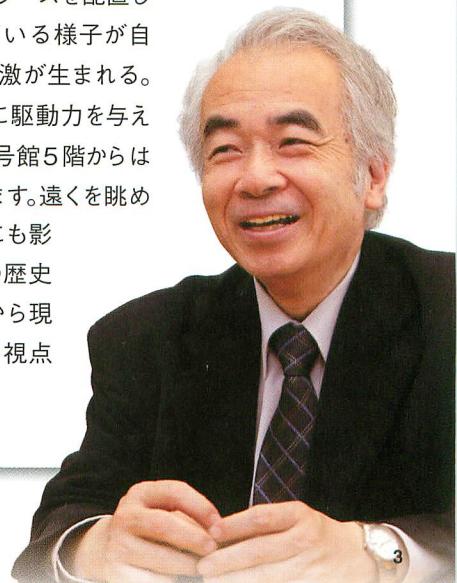
「社会システムやアーキテクチャ」のデザインに責任をもてる博士人材は、産業や行政、海外といった異なる分野や、異なる学問領域を超えて連携できるジェネラリストであるとともに、領域の違いを突き抜けて、問題本質の類似と差異について認識できる能力が求められます。当プログラムでは、互いの専門性を集めて解決するスキルを養う「問題発見型学習・問題解決型学習」、問題解決のために組成させる異領域の専門家から成るチームをオーガナイズする「オープンイノベーション実習」、産学官プロジェクトに参加し博士研究としてのデザイン学を究める「リーディングプロジェクト」の3つの課程を設けました。「実習」を前面に打ち出し、異領域のデザインについて学ぶ「デザイン共通科目」を設けた独自のプログラムは、海外からも高く評価されています。



「出会い」や「対話」が生まれ イノベーションを創出する空間構成

京都大学 工学研究科 建築学専攻
デザイン学ユニット運営委員長、デザインスクール代表 門内 輝行教授

デザインイノベーション拠点では、「問題発見・問題解決学習」「オープンイノベーション実習」「リーディングプロジェクト」の3つのカリキュラムを行います。相互に刺激しあってプラスの価値を生み出す空間にするため、長い廊下を通り抜けた先に、広い共用スペースを設け、それを囲むように各プロジェクトのブースを配置しました。誰かが何かをしている様子が自然と目に入り、出会いと刺激が生まれる。それぞれのプロジェクトに駆動力を与える空間です。また、KRP9号館5階からは三山の山並みを見晴らせます。遠くを眺めることは思考のスケールにも影響しますし、京都の悠久の歴史が感じられ、過去の世代から現在、未来の世代へと、広い視点で思考できる環境です。





京都大学国際デザインシンポジウム

International Design Symposium in Kyoto (IDS Kyoto 2013)を開催

日時:2013年3月15日(金)10:00~17:30(交流会18:00~19:30)・16日(土)9:00~12:30

場所:KRP1号館4階サイエンスホール(KRP9号館 京大デザインイノベーション拠点)

京都大学デザインスクールのキックオフイベントとして、世界で立ち上がっている著名なデザインスクールから多彩なスピーカーが招かれ、各大学独自の学際的な教育プログラムや成果事例が紹介された。国際的な人材交流が組み込まれる本プログラムの今後の活動にとって、大きな意味をもつ有意義な機会となった。



スタンフォード大学のd.school、ハーバード大学デザイン学院をはじめ、アメリカ・ヨーロッパ・アジアの著名なデザインスクールから各担当教授・研究者をスピーカーとして招へいし、企業・行政関係者らに参加を呼びかけて開かれた初めての国際シンポジウム。建築や情報などさまざまなバックグラウンドを持つスピーカーが一堂に会し、真剣な議論を展開し、まさにデザインスクールが目指す異領域連携・国際連携を体現する場となった。

連携プログラムの教育委員長である榎木教授が進行役となり、1日目午前は、京都大学デザインスクールの取り組みについてコーディネータの石田教授をはじめ、国際連携、デザインイノベーション拠点、産学公連携などについて、各

担当教授が発表。午後はフィンランドのアールト大学など、京都大学デザインスクールにとって重要な国際連携先となる海外の各大学のプレゼンテーションが行われた。2日目は、デザインにおける産学連携についてスタンフォード大学 d.schoolにおけるコラボレーション事例の紹介、つづいてイギリスの大学における研究者的人材教育の取り組みの紹介が行われた。またシンポジウムの最後にデザインイノベーション拠点の見学ツアーを実施。石田・榎木・門内各教授がガイド役となって、教育プログラムごとにゾーニングされた空間構成やインフィルを使った開放感のある内部を案内した。各国の参加者は早速テーブルを囲んで、京大デザインスクールの今後に対する期待や意見を語り合った。

京都大学デザインスクール ワークショップシリーズ 「Designful? “サービス”のデザイン性とは」

日時: 2013年3月27日(水)9:30~17:30・28日(木)9:30~17:00

場所: KRP1号館4階サイエンスホール／KRP4号館地下1階バズホール

京都大学デザインスクールのワークショップの一環として「サービスのデザイン性」をテーマにしたワークショップが開催された。本テーマを主題にした講義やパネルディスカッションの後、参加者がチームごとに分かれ課題に取り組んだ。

1日目は造形デザインの集中講義、鮨屋・ゲームデザイナー・結婚式プランナーなどサービスのプロたちによるパネル討論の後、グループを編成して「サービスのデザイン性」について議論、結果を発表。2日目はサービスのデザインについて米国IDEO社アソシエイトパートナーによる講演の後、デザインセッションが行われ、各グループで「デザインスクールの新入生を迎えるサービス」をデザイン。チームごとに寸劇によるプレゼンテーションを行った。2日間という短い日程で、理論から実習・発表まで、スピードやチームワーク・発表能力を求められる課題に、企業関係者ら一般参加者も含む104人が挑戦。課題・問題の解決に取り組むプロセスを体感し、“Designful”とは何かを考える2日間となった。



京都大学デザインスクールをお迎えして

京都リサーチパークは過去数年間、「情報系産業による京都地域活性化研究会」を運営、日本における産学連携の方々を有識者の方々と議論して参りました。その間、海外の事例や日本の現状をつぶさに伺い、我が国に産学連携をミッションとし、産と学の間に位置する中間組織体が必要であるとの結論に達しておりました。このたび、京都大学はデザインイノベーション拠点をKRP地区に開設され、その中で、

京都リサーチパーク(株) 産学公連携部長 木村 千恵子

オープンイノベーション機能を担うフューチャーセンターが動き始めます。この拠点が、産と学を紡ぐ中間組織体へと発展し、グローバルな人財と知財が集まり、京都が世界的なデザイン都市へと飛躍する原動力となることを願って止みません。KRP(株)は、この未来ある拠点の運営に参画し、ここを起点に新たなイノベーションが生まれることを全力で支援する所存です。